

JEMIMA会報



計測と制御で創る未来の地球

計測展2014 OSAKA

11/19(水)~21(金)

10:00~17:00

グランキューブ大阪 (中之島・大阪国際会議場)

入場料: ¥1,000 (消費税込)

※事前登録者、招待券持参者および
学生(登録の際、学生証提示)は無料

未来が、動きだす。

未来が、動きだす。
計測展 2014 OSAKA、4つの視点。

日本の国際競争力と
ものづくり

パワーエレクトロニクスが
拓く未来

スマートワイヤレスの
未来

Industry4.0
時代へ

の4つの視点に、それぞれの業界をリードするオーソリティの特別講演を多数開催します。
また、テーマ展示をセミナー会場ロビーに開催し、最新の情報に触れていただくことができます。

基調講演

日時 11/19(水) 11:30~12:30

テーマ 関西経済の今後の方向性について(仮題)

講師 近畿経済産業局長 関 総一郎 氏



日本の国際競争力とものづくり

日時 11/19(水) 13:00~14:30

テーマ ものづくり維新—日本企業復活への道—サムソンのグローバル戦略から学ぶ

講師 東京大学大学院経済学研究科 ものづくり経営研究センター 特任研究員 吉川 良三 氏



日時 11/19(水) 12:30~13:30

テーマ “世界中の人々を豊かにする”オムロン綾部工場の生産革新

講師 オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー オートメーションシステム統括事業部 綾部工場 工場長 辨官 達也 氏



日時 11/21(金) 12:25~13:35

テーマ 21世紀の新たな日本流ものづくり—モチベーションとイノベーション—

講師 MI人財開発研究所代表(元デンソー技研センター顧問) 今枝 誠 氏



パワーエレクトロニクスが拓く未来

日時 11/20(木) 14:00~15:30

テーマ 基礎研究と実用化—パワー半導体SiCのあゆみ—

講師 京都大学名誉教授 松波 弘之 氏(工学博士)



日時 11/20(木) 10:30~12:00

テーマ モータ駆動・半導体電力変換の技術動向と計測の課題

講師 首都大学東京 理工学研究科 教授 清水 敏久 氏(工学博士)



日時 11/20(木) 12:20~13:20

テーマ 可変駆動システムの効率測定における国際標準規格への取組み

講師 富士電機株式会社 技術開発本部 パワエレ技術開発センター 主任 佐藤 以久也 氏



スマートワイヤレスの未来

日時 11/20(木) [第1部]12:20~13:50 [第2部]13:55~17:00

テーマ ソーシャル・ビッグデータ時代を支える

次世代センサー/メーター用無線通信技術:Wi-SUN

講師 京都大学 大学院情報学研究科 通信情報システム専攻 教授 原田 博司 氏(工学博士)



第2部 テーマ センサーネットワーク無線 関連市場動向

Industry4.0時代へ

日時 11/19(水) 15:00~16:30

テーマ ビッグデータ時代のサイバーセキュリティ

講師 電気通信大学 情報理工学研究科 知能機械工学専攻 教授 新 誠一 氏(工学博士)



日時 11/20(木) 13:40~15:10

テーマ IECフォーラム①

・Industry 4.0とスマート・マニファクチャリング
・オートメーション・システムが支えるエネルギー効率

日時 11/20(木) 15:20~16:50

テーマ IECフォーラム②

・安全とセキュリティ分野におけるIEC標準と認証
・計測・制御機器のプロパティに関する標準化動向

日時 11/21(金) 10:30~12:00

テーマ IoT(モノのインターネット)~コンピューティングの更なる進化~

講師 インテル株式会社 IoTソリューション事業開発部 部長 佐藤 有紀子 氏



ラウンドテーブルセッション

日時 11/21(金) 13:00~15:00

テーマ 進化する社会インフラストラクチャを支える国際標準

いずれも事前申込制・無料

その他、50テーマ以上にもおよび[テクニカルセミナー]、
JEMIMA委員会活動報告[JEMIMA委員会セミナー]も開催!

主催: 一般社団法人 日本電気計測器工業会
Japan Electric Measuring Instruments Manufacturers' Association

事前登録受付中 当日抽選で電子書籍端末やQUOカード™が当たる!!

「QUOカード™」は、株式会社クオカードの登録商標です。

事前登録はこちらから!

<http://jemima.or.jp/osaka/>

計測展

検索



目 次

2 ●特集：計測展2014 OSAKA

開催概要
委員会出展紹介
委員会セミナー

12 ●お知らせ

新入会員
セミナー・講演会 開催案内

14 ●欧州環境規制レポート（第36回）

18 ●SICE ANNUAL CONFERENCE 2014 北海道 JEMIMA Forum実施報告

21 ●委員会活動報告

連載
製品安全・EMC委員会：IEC/TC66活動報告（第4回）
IEC/TC66 Northbrook会議参加と次回東京会議
委員会開催録

27 ●関西支部トピックス

28 ●刊行物案内

30 ●統計（電気計測器生産統計2014年7月）

●広告掲載会社

計測展2014 OSAKA.....（表2）
計測展2015 TOKYO.....（表3）
日本電気計器検定所.....（表4）

特集：計測展 2014 OSAKA

計測展 2014 OSAKA まもなく開催！

最新情報はこちら
<http://jemima.or.jp/osaka/>

計測展 2014 OSAKA、ここが見どころ。

これまでのように情報通信端末だけでなく、あらゆるモノに通信機能を持たせる“モノのインターネット”（IoT：Internet of Things）の実現についての議論が熱く交わされています。あらゆるものはインターネットに接続され、相互に通信することが可能になり、モノのレベルで遠隔計測や自動制御が行われるようになります。それにより、例えば、渋滞情報をリアルタイムで集約・フィードバックし、渋滞解消を図る交通インフラ、工場や家庭のデマンド監視やエネルギーマネジメント、部品の状態を検知して故障状況や交換の要否をメーカーが把握するリモートメンテナンスやセーフティなどのような革新が、あらゆる産業や社会インフラで実現するでしょう。

これら産業や社会インフラを支える、最新の計測・制御技術が計測展 2014 OSAKAに集結します。

今、現実味を帯びてきた“未来”は、計測と制御によって、いよいよ動きだします。

（写真は計測展 2012 OSAKA）



開会式



JEMIMA ステージ



会場風景



ラウンドテーブル

「計測展 2014 OSAKA」開催概要

1. 開催概要

- ①名 称：計測展 2014 OSAKA
- ②テ ー マ：計測と制御で創る未来の地球
～未来が、動きだす。～
- ③会 期：2014年11月19日（水）～11月21日（金） 3日間
- ④開催時間：10:00～17:00
- ⑤会 場：グランキューブ大阪（中之島・大阪国際会議場）
- ⑥主 催：一般社団法人 日本電気計測器工業会（JEMIMA）
- ⑦後 援：近畿経済産業局、大阪府、大阪市、大阪商工会議所
- ⑧協 賛：独立行政法人 産業技術総合研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構
一般財団法人 大阪科学技術センター、一般社団法人 KEC関西電子工業振興センター
一般社団法人 電子情報技術産業協会、一般社団法人 日本電機工業会
一般社団法人 日本電気制御機器工業会、一般社団法人 日本電設工業協会
一般社団法人 電気学会、一般社団法人 電子情報通信学会、
公益社団法人 計測自動制御学会、日本電気計器検定所、システム制御情報学会
- ⑩入 場 料：1,000円（消費税込）
ただし、Webサイト事前登録者及び招待状持参者は無料
- ⑪来場目標：11,200名／総来場者（10,379名／2012年実績）
7,000名／来場登録数（6,890名／2012年実績）

2. 出展規模（出展者一覧参照）

- ①展示会出展：57社・団体・11委員会 140小間
- ②テクニカルセミナー参加：23社・団体 55テーマ

3. 併催事業の概要

計測展 2014 OSAKA、“未来”を探る4つの視点。

「日本の国際競争力とものづくり」ものづくりはどのように変化し、日本はいかに国際競争力を獲得するべきなのか。モノづくりのオーソリティを招き探ります。

「スマートワイヤレスの未来」IoTに欠かせないスマートワイヤレスはどのような未来を描くのか。今注目される無線通信規格Wi-SUNの応用例を軸にたどります。

「Industry4.0時代へ」IoTで変革する未来をいち早く国策に採り入れたドイツが提唱する、第4次産業革命を動かした国際標準化の議論をリードするコンベンラを招いて紹介します。

「パワーエレクトロニクスが拓く未来」次世代自動車の動力でも注目される半導体動力変換。パワー半導体SiCの最新技術動向などを中心にグリーンイノベーションの未来に触れます。

(1) ラウンドテーブルセッション

11/21（金）13:00～15:00

「進化する社会インフラストラクチャを支える国際標準」

プロセス・オートメーションで培われてきた計測・制御技術は今後の社会基盤（インフラストラクチャ）の発展にも様々な分野で応用・展開される。並行してその安全で確実な運用を支える国際標準も開発されつつある。今回のラウンドテーブルセッションではモノづくりからスマートグリッドに至るまでの「エネルギー効率」とIndustry4.0等で代表される「Smart Manufacturing」の分野での国際標準化動向とその意義を確認し、モノづくりとオートメーションの将来に向けて、私たちは何をすべきかを徹底議論する。

[登壇者]

1. SIEMENS AG IEC TC65 議長 Roland Heidel 氏
2. Schneider Electric SA IEC SC65E 議長 Joseph Briant 氏
3. 株式会社日立製作所 インフラシステム社 技術開発本部 国際標準化部 部長 水上 潔 氏
4. 横河電機株式会社 IA-MK本部 テクノロジーマーケティング室長 小田 信二 氏
5. アズビル株式会社 技術標準部 国際標準化担当部長 石隈 徹 氏 (ファシリテータ)

(2) 基調講演

11/19 (水) 11:30~12:30

「関西経済の今後の方向性について」(仮題)

経済産業省近畿経済産業局長 関 総一郎 様

景気を本格的な回復基調につなげるため、「アベノミクス」は何を進めてきているのか。日本経済の現状と中期的課題をふまえ、これからの関西経済の目指すべき方向性について講演する。

(3) 特別講演など講演会

【日本の国際競争力とものづくり】

- ・ものづくり維新ー日本企業復活への道ー ～サムスンのグローバル戦略から学ぶ～

11/19 (水) 13:00~14:30

講師：東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター 特任研究員 吉川 良三 氏

- ・“世界中の人々を豊かにする” オムロン綾部工場の生産革新

11/19 (水) 12:30~13:30

講師：オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

オートメーションシステム統轄事業部 綾部工場 工場長 辯宮 達也 氏

- ・21世紀の新たな日本流ものづくりーモチベーションとイノベーションー

11/21 (金) 12:25~13:35

講師：MI人財開発研究所 代表 元デンソー技研センター 顧問 今枝 誠 氏

【パワーエレクトロニクスが拓く未来】

- ・基礎研究と実用化ーパワー半導体SiCのあゆみー

11/20 (木) 14:00~15:30

講師：京都大学名誉教授 松波 弘之 (工学博士) 氏

- ・モータ駆動・半導体電力変換の技術動向と計測の課題

11/20 (木) 10:30~12:00

講師：首都大学東京 理工学研究科 教授 清水 敏久 氏

- ・可変速駆動システムの効率測定における国際標準規格への取り組み

11/20 (木) 12:20~13:20

講師：富士電機株式会社 技術開発本部 パワエレ技術開発センター 主任 佐藤 以久也 氏

【スマートワイヤレスの未来】

- ・ソーシャル・ビッグデータ時代を支える次世代センサー／メーター用無線通信技術：Wi-SUN

11/20 (木) 12:20~13:50

講師：京都大学大学院 情報学研究科 通信情報システム専攻 教授 原田 博司 (工学博士) 氏

- ・HEMSの動向と無線ネットワーク活用

11/20 (木) 13:55~14:30

講師：パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 技術本部システム開発センター

総括参事 薦田 美行 氏

- ・無線センサーネットワークで実現する構造物モニタリングとビッグデータ基盤
11/20 (木) 14:35～15:10
講師：筑波技術大学 産業技術学部 教授 倉田 成人 (工学博士) 氏
- ・オムロンの無線関連製品・サービスとスマートワイヤレスに関する取り組み
11/20 (木) 15:15～15:50
講師：オムロン株式会社 技術・知財本部 応用開発センタ 主事 山田 亮太 氏
- ・IA市場での無線ネットワーク動向と横河電機の活動と戦略
11/20 (木) 15:55～16:30
講師：横河電機株式会社 IAプラットフォーム事業本部 新分野開発センター
無線ソリューション部長 無線プロダクトマネージャ 古川 陽太 氏
- ・センサーネットワーク無線の最新標準化動向とテスト技法
11/20 (木) 16:35～17:00
講師：アンリツエンジニアリング株式会社 第一事業本部 新市場開拓部 課長 加藤 豊行 氏

【Industry4.0時代へ】

- ・ビッグデータ時代のサイバーセキュリティ
11/19 (水) 15:00～16:30
講師：電気通信大学 情報理工学研究科 知能機械工学専攻 教授 新 誠一 氏
- ・IECフォーラム
11/20 (木) 13:40～15:10
 - ①Industry 4.0とスマート・マニュファクチャリング
SIEMENS AG IEC TC65 議長 Roland Heide 氏
 - ①オートメーション・システムが支えるエネルギー効率
Schneider Electric SA IEC SC65E 議長 Joseph Briant 氏
- 11/20 (木) 15:20～16:50
 - ②安全とセキュリティ分野におけるIEC標準と認証
Rockwell Automation Inc. IEC SC65A 議長 Robert. J. Kretschmann 氏
 - ②計測・制御機器のプロパティに関する標準化動向
BASF SE IEC SC65B 議長 Wilfried Hartmann 氏
- ・IoT (モノのインターネット) ～コンピューティングの更なる進化～
11/21 (金) 10:30～12:00
講師：インテル株式会社 IoTソリューション事業開発部 部長 佐藤 有紀子 氏

【その他特別講演】

- ・省エネ診断・技術事例発表会～経営コストのお悩み解決！儲かる省エネ～
11/21 (金) 14:00～16:50
一般財団法人 省エネルギーセンター

以 上

[問合せ先] 一般社団法人日本電気計測器工業会
計測展 2014 OSAKA実行委員会 事務局 (島村・富山)
TEL : 03-3662-8184 / FAX : 03-3662-8180
E-mail : jemima-showosaka@jemima.or.jp
URL : <http://jemima.or.jp/osaka/>

計測展2014 OSAKA 出展者一覧表

平成26年9月22日現在

No.	区分	小間番号	会社名(日本語)	小間数	小間形態	小間詳細	TS20分	TS50分	特別講演	委員会 セミナー	テーマ 展示
1	◎	1	アズビル株式会社	15	スペース			7			
2	◎	2	アンリツ株式会社	3	並列			3			3
3	◎	3	岩通計測株式会社	2	並列			1			1
4	◎	—	株式会社エヌエフ回路設計ブロック	—	—			5			
5	◎	5	株式会社エネゲート	1	並列						
6	◎	6	エムティティ株式会社	2	並列						
7	◎	7	エンドレスハウザージャパン株式会社	3	並列						
8	◎	8	株式会社岡崎製作所	1	並列			1			
9	◎	9	京西テクノス株式会社	2	並列						
10	◎	10	京都EIC株式会社	2	並列						
11	◎	11	島津システムソリューションズ株式会社	10	スペース		2				
12	◎	12	新光電機株式会社	1	並列						
13	◎	13	新コスモス電機株式会社	2	並列		1				
14	◎	14	神港テクノス株式会社	1	並列						
15	◎	15	タケモトデンキ株式会社	2	並列						
16	◎	16	株式会社チノー	3	並列		2				
17	◎	17	中央電子株式会社	2	並列						
18	◎	18	東亜ディーケーケー株式会社	3	並列						
19	◎	19	東京計装株式会社	4	ブロック						
20	◎	20	株式会社ピーアンドエフ	3	並列		1				
21	◎	21	日置電機株式会社	2	並列			2			
22	◎	22	株式会社日立ハイテクソリューションズ	4	並列						
23	◎	23	富士電機株式会社	12	スペース			2			
24	◎	24	株式会社堀場製作所	10	スペース		6	4			
25	◎	25	三菱電機株式会社	2	並列						
26	◎	26	山里産業株式会社	1	並列						
27	◎	27	横河電機株式会社／横河ソリューションサービス株式会社	12	スペース			6			
28	◎	28	横河メータ&インスツルメンツ株式会社	3	並列			1			
29	◎	29	リオン株式会社	1	並列	パッケージ					
30	◎	30	理研計器株式会社	2	並列						
31	◎	31	アナログ・デバイセズ株式会社	2	並列			1			
32	○	32	アルファ・エレクトロニクス株式会社	2	並列						
33	○	33	株式会社エミツク	1	並列						
34	○	—	株式会社エム・システム技研	—	—						2
35	○	—	音羽電機工業株式会社	—	—		1				1
36	○	34	関西オートメーション株式会社	1	並列						
37	○	35	サラ株式会社	1	並列						
38	○	36	GMIジャパン株式会社	1	並列	パッケージ					
39	○	37	株式会社田中電気研究所	1	並列	パッケージ					
40	○	4	株式会社千代田エレクトロニクス	2	並列						
41	○	38	株式会社東京測器研究所	1	並列						
42	○	39	東光計器株式会社	2	並列						

計測展2014 OSAKA 出展者一覧表

平成26年9月22日現在

No.	区分	小間番号	会社名(日本語)	小間数	小間形態	小間詳細	TS20分	TS50分	特別講演	委員会 セミナー	テーマ 展示
43	○	40	日本計器株式会社	1	並列	パッケージ					
44	○	—	ピー・エフ・オートメーション株式会社	—	—		2				
45	○	—	ベッコフオートメーション株式会社	—	—			1			1
46	○	41	偉林電子股份有限公司	2	並列						
47	○	42	メイク株式会社	1	並列	パッケージ					
48	○	43	株式会社ロックインターナショナル	1	並列	パッケージ	1				
49	△	44	ISA100 Wireless Compliance Institute	1	並列			2			
50	△	45	FDTグループ日本支部	1	並列			1			
51	△[○]	46	公益社団法人 計測自動制御学会	1	並列						
52	△	47	一般社団法人KEC関西電子工業振興センター	1	並列	パッケージ		1			
53	△	—	一般財団法人省エネルギーセンター	—	—				○		
54	△	48	日本電気計器検定所関西支社尼崎事業所	1	並列						
55	△	49	システム コントロール フェア 2015	1	並列						
56	△	50	特定非営利活動法人日本フィールドパス協会	3	並列			1			
57	◇	51	オートメ新聞株式会社	1	並列						
58	主催者	52	一般社団法人 日本電気計測器工業会	委員会コーナー							
59	□		温度計測委員会								
60	□		環境計測委員会								
61	□		校正事業推進委員会							○	
62	□		製品安全・EMC委員会								
63	□	—	IEC TC65国内委員会	—	—					○	
64	□	—	エネルギー・低炭素政策委員会	—	—					○	
65	□	—	環境グリーン委員会	—	—					○	
66	□	—	企画運営会議	—	—					○	
67	□	—	戦略的基盤技術検討委員会	—	—				○		
68	□	—	電子測定器委員会	—	—					○	
69	□	—	PA・FA計測制御委員会	—	—					○○	
合計			57社・団体 11委員会	140			16	39	2	8	8

区分

◎:会員

○:一般

△:団体

◇:出版報道

□:JEMIMA委員会

JEMIMA委員会出展のご紹介

【温度計測委員会】

温度計測委員会では、16年ぶりに改正されたJIS C 1604 測温抵抗体の改正のポイントをご紹介します。対応国際規格IEC 60751：2008との整合化とともに測温抵抗体と抵抗素子を分けた規定や新たに許容差判定に不確かさを取り入れるなど、大幅な改正になっております。改正についてご不明の点を温度計メーカーが为您解答いたします。

【環境計測委員会】

人々の生活環境を守るために環境計測器は、いろいろな場所で使われています。そんな環境計測器をパネルでご紹介し、JEMIMAの刊行物もご紹介します。

【校正事業推進委員会】

ご好評をいただいている「JEMIMA JCSS校正サービスハンドブック」は、JCSSの現状をお伝えできるように計測展2013 TOKYOからリニューアルしました。恒例の「JCSS認知度アンケート調査」も実施します。粗品と交換いたしますので、当委員会にご来場の際には是非、アンケート調査にご協力をお願いします。

【製品安全・EMC委員会】

当委員会は、電気計測器及び関連製品について、国内外のEMC及び電気／光安全に係る各種法律及び関連規格を中心に、その制定・改廃に関する様々な情報を収集しています。この内、特に関心のある情報を「ナレッジベース JemiWiki」に分析・整理して蓄積し、当委員会に關係する会員等に限定してWeb公開しています。

会場ではJemiWikiのデモンストレーション及び各国法規制改正への対応やIEC 61010等の規格関連の活動を紹介します。是非、当委員会のブースにお越しいただきJEMIMAの製品安全・EMCに対する取り組みをご覧ください。

JEMIMA委員会セミナー

11月19日（水）【電子測定器委員会：J-1】

時 間：12時30分～13時20分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

テーマ：測定装置の選び方（予定）

概 要：パワエレ計測、系統連携試験、バッテリー計測、電力用磁性材料評価など、電力の有効利用のための精緻な計測技術が望まれている。本セミナーでは、これら計測に必要となる測定装置をどのように選んだら良いのか、ポイントとなる測定装置の仕様項目を幾つか取り上げ解説する。

講 師：電子測定器委員会 委員

11月19日（水）【PA・FA計測制御委員会：J-2】

時 間：13時40分～16時40分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

①テーマ：制御システムセキュリティ向上に向けた取り組み

概 要：制御システム・セキュリティ自己評価ツール「J-CLICS」の開発経緯とセキュリティ強化の施策例を紹介。

講 師：アズビル株式会社 窪谷 聡 氏
ABB日本ベレー株式会社 後藤 浩基 氏

②テーマ：機能安全の実施手法

概 要：IEC 61508 とIEC 61511の概要解説と、機能安全の実施で用いられる、管理や開発設計手法を紹介。

講 師：新川センサテクノロジー株式会社 坊田 信吾 氏

③テーマ：工業用無線の高信頼機能と共存管理

概 要：工業用無線の信頼性実証試験と2.4GHz帯における無線共存管理の国際動向について解説。

講 師：横河電機株式会社 長谷川 敏 氏
富士電機株式会社 加藤 泰輔 氏
新川センサテクノロジー株式会社 榎木 茂実 氏

11月19日（水）【エネルギー・低炭素政策委員会：J-3】

時 間：14時00分～16時30分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1009会議室（G会場）

①テーマ：省エネ・低炭素社会化に関する規制と国際標準の動向について

概 要：エネルギー消費の増大によるCO2排出量の増加のため、地球温暖化が発生している。これに対応するには、省エネ等により、CO2排出量を削減していくことが必要である。ここでは、省エネや地球温暖化防止に向けた規制及び国際標準等の動向について紹介する。

講 師：横河電機株式会社 澤田 充弘 氏

②テーマ：エネルギー効率化のためのシステムアプローチ入門

概 要：産業オートメーション分野の省エネルギー策は、単独の設備や組織を対象とするレベルから、複合的なシステムレベルでの最適化へとシフトしつつある。本講演では、システムレベルの視点から効率化実現へのアプローチについて国際標準化動向を交え紹介する。

講 師：富士電機株式会社 鈴木 聡 氏

③テーマ：スマートグリッドと工場間のインタフェース標準化活動

概 要：工場は電力の大口の需要家である。供給側からみると需給バランスをひっ迫させる大きな負荷であるが、いざという時には確実にかつ大きな調整能力のある負荷ともなりうる。この考え方にもとづいてスマートグリッドと工場との密接な情報のやり取りによってグリッドの需給バランスを取る

試みが行われている。エネルギー低炭素政策委員会ではこの試みの中から得られる知見をもとにスマートグリッドと工場間のインタフェースの標準化およびその国際化に取り組んでいる。本講演ではこの取り組みについて紹介する。

講 師：横河電機株式会社 渡辺 洋 氏

11月20日（木）【IEC/TC65国内委員会：J-4】

時 間：10時30分～12時00分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

テーマ：IEC/TC65で進められているエネルギー関連国際標準開発

概 要：① IEC/TC65最新動向

② エネルギー効率

③ 工場とスマートグリッドのインターフェース

講 師：① IEC/TC65国内委員会 委員長（アズビル株式会社）／笹嶋 久 氏

② IEC/TC65/JWG14 国際エキスパート（横河電機株式会社）／出町 公二 氏

③ IEC/TC65/WG17 国際コンベナ（アズビル株式会社）／石隈 徹 氏

11月20日（木）【戦略的基盤技術検討委員会：J-5】

時 間：14時00分～15時30分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

テーマ：基礎研究と実用化ーパワー半導体SiCのあゆみー

概 要：パワー半導体SiCへの期待と技術の現状、京都大学における基礎研究、実用化へのみちのりとしての国家プロジェクトへの依存、省エネ効果の実例を紹介し、グリーンイノベーションへの今後の展開を述べる。

講 師：京都大学名誉教授 松波 弘之 氏（工学博士）

11月21日（金）【校正事業推進委員会：J-6】

時 間：10時30分～13時00分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

テーマ：広がる校正サービス2014～新たな計量標準とこれからのJCSS～

① 計量標準の利用促進について

計量標準は産業や科学技術、国民の安心・安全等を支える基盤として重要なものです。経済産業省では、今後10年をにらんだ計量標準に関する新たな整備計画と利用促進方策を策定しましたのでご紹介します。

② 蓄電池の安全性評価を目的とした内部インピーダンス標準の開発

大容量蓄電池はエネルギーを効率的に運用するスマートエネルギー社会推進のための重要技術となっている。しかし、近年実装事例が増えるにつれ、その危険性の側面が無視できなくなってきたおり、実際に利用されている蓄電池の潜在的な劣化を早期に検知し、重大事故の発生を未然に防ぐ技術の確立が喫緊の課題となっている。蓄電池の劣化状態をチェックする手法の一つとして、非破壊かつ電池への負担が少ないインピーダンス測定を紹介する。

③ 計量標準の利用促進のためのJCSS改善への取り組み

平成25年8月発表された「計量標準に関する新たな整備計画及び利用促進方策」においては、計量標準の利用促進のためにJCSS制度のより一層の普及が望まれております。本講演では、昨年度から今年度にかけて実施したJCSS普及のための改善に向けたNITE認定センターの取り組み及びJCSSに関連する周辺動向をご紹介します。

④ JCSS校正サービスのあるべき姿について

JCSS創設20年を境に計量標準の新たな整備計画及びその利用促進とともにJCSSの普及について見直しが行われています。計測器メーカーが提供するJCSS校正サービスも見直しを試みたいと思

います。

概 要：新たな知的基盤整備計画及び具体的な利用促進方策が策定された。JCSSがより産業界に必要とされるためのあるべき姿を考えたい。

講 師：① 経済産業省 産業技術環境局 計量行政室 室長補佐
松井 洋二 氏
② (独) 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 電磁気計測科長
金子 晋久 氏
③ (独) 製品評価技術基盤機構 認定センター 計量認定課 課長
村田 浩美 氏
④ JEMIMA校正事業推進委員会
勝田 敏江 氏

11月21日（金）【企画運営会議：J-7】

時 間：12時25分～13時35分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1009会議室（G会場）

テーマ：21世紀の新たな日本流ものづくり

概 要：本セミナーでは、ものづくりの三要素である人づくり、価値づくり、物づくりの中で、価値づくりに焦点をあて「自分軸の設定と実践のステップ」を具体化させる実践的な創造思考技術の道具についても言及いたします。本セミナーを通じ「21世紀の新たな日本流ものづくり」について皆様方と一緒に考えてみたいと思います。

講 師：MI人財開発研究所（元デンソー技術センター顧問）
代表 今枝 誠 氏

11月21日（金）【環境グリーン委員会：J-8】

時 間：14時00分～16時30分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1008会議室（F会場）

テーマ：① EU最新情報
② 水銀条約及び国内法の動向
③ 中国関連情報

概 要：計測制御機器への強制適用が始まったEU-RoHS2への対応を中心に、当委員会で調査・検討した内容についてご紹介する他、当委員会ブラッセル駐在の中井委員より、RoHS2追加禁止物質等のレビュー状況、製品環境規制に関するEU域内の現地最新情勢をご紹介いたします。また、「水銀に関する水俣条約」に対応する国内法の整備状況や製品含有化学物質規制に関する日本の対応についても、ご紹介いたします。

講 師：① 株式会社堀場製作所／ブラッセル駐在 中井 章仁 氏
② 岩通計測株式会社 酒井 聡 氏
③ 横河電機株式会社 澤田 充弘 氏

11月21日（金）【PA・FA計測制御委員会：J-9】

時 間：13時50分～14時40分

会 場：グランキューブ大阪 10階 1005会議室（B会場）

テーマ：プロセス産業における重大事故対策としての安全システムの重要性

概 要：プロセス産業における重大事故の発生が近年増加している。その原因の一つとして、現場力の低下が考えられる。不確定要素のある人に依存した対策を補完する為にも安全システムの導入を考慮すべきである。加えて地震などの自然災害の際の二次災害を防ぐ手段としても安全システムの位置づけが重要になっている。

講 師：岡山大学 大学院自然科学研究科 産業創成工学専攻 教授 鈴木 和彦 氏（工学博士）

新入会員

平成26年7月度理事会におきまして、下記の会社の入会が承認されました。

〔正会員〕

社名：長瀬ランダウア株式会社

代表者名：代表取締役 常務 的場 洋明 氏

本社所在地：〒300-2686 茨城県つくば市諏訪C22街区1

電話番号：029-839-3322

ホームページアドレス：<http://www.nagase-landauer.co.jp/>

主要取扱製品名：放射線計測器（個人外部被ばくモニタ、環境モニタ）

社名：キーサイト・テクノロジー合同会社

代表者名：職務執行者 社長 梅島 正明 氏

本社所在地：〒192-8550 東京都八王子市高倉町9番1号

電話番号：042-660-3000

ホームページアドレス：<http://www.keysight.co.jp/>

主要取扱製品名：電気測定器（電圧・電流・電力測定器、オシロスコープ、オーディオ・ビデオ測定器、スペクトラムアナライザ、半導体・IC測定器、回路素子・材料測定器、有線通信測定器、電波測定器、無線通信測定器、光測定器、信号発生器・発振器、測定用記録計・データ処理装置、その他の電気測定器）

〔賛助会員〕

社名：株式会社MHPSコントロールシステムズ

代表者名：代表取締役 平田 大作 氏

本社所在地：〒231-8715 横浜市中区錦町12番地（MHPS横浜工場）

電話番号：045-629-1400

ホームページアドレス：<http://www.cs.mhps.com/>

主要取扱製品名：トータルエンジニアリング、三菱日立パワーシステムズ製 制御装置 等

セミナー「これから始める製品安全とEMC！ 入門講座2014」開催案内

主催：製品安全・EMC委員会

製品安全・EMC委員会では、国内外のEMC及び電気/光安全にかかわる法規制とそれに関連する規格の情報を皆様方に提供するべく活動しています。

本セミナーでは、電子・電気機器やその周辺で発生しうる現象、及びその原因・対策や規格との対応について、具体的な事例も交えわかりやすく説明します。製品安全とEMCに関する業務経験の浅い方や、再度基礎から確認し直したい方に、入門講座として特に有用なものと考えています。

— 記 —

日 時：平成26年12月3日（水）10:00～16:30（受付開始 9:30）

会 場：フォーラムミカサ エコ 7Fホール

最寄駅：JR神田駅 西口 徒歩5分、東京メトロ銀座線 神田駅 4番出口 徒歩5分 他

内 容：これから始めるEMC（講師：㈱コスモス・コーポレーション 川原氏）

これから始める製品安全（講師：㈱コスモス・コーポレーション 坂井氏）

参加費：一般 10,000円／1名（消費税含む）

JEMIMA会員 5,000円／1名（消費税含む）

定 員：60名（先着順で、定員になり次第締め切りとさせていただきます。）

申込方法：JEMIMAホームページ <http://www.jemima.or.jp/> よりお願いします。

お問合せ先：一般社団法人日本電気計測器工業会 製品安全・EMC委員会 事務局（電話：03-3662-8182）

講演会「インドネシアの動向（仮）」開催案内

主催：国際委員会

国際委員会では、将来性を嘱望されておりますインドネシアの最新の動向について、ジェトロのインドネシア専門家にお伺いする機会を設け、下記にて講演会を予定しております。既にインドネシアへ進出されておられる会員の方、現在検討中の会員の方、また、将来の進出に備えて最新情報をお聞きしたい会員の方は是非ご予定ください。

— 記 —

日 時：平成26年12月11日（木）15:00～16:30（受付開始 14:30）予定

会 場：JEMIMA本部 計測会館 4階会議室

最寄駅：東京メトロ 水天宮前、又は東京メトロ・都営浅草線 人形町

講 師：日本貿易振興機構（ジェトロ） 予定

内 容：詳細は内容が確定次第Webにて公開いたします。

参加資格：JEMIMA会員

参加費：無料

定 員：50名（先着順で定員になり次第締め切りとさせていただきます。）

公開予定日：平成26年11月10日（月）

申込方法：JEMIMAホームページ <http://www.jemima.or.jp/> よりお願いします。

お問合せ先：一般社団法人日本電気計測器工業会 国際委員会 事務局（電話：03-3662-8184）



欧州環境規制レポート（第36回）

環境グリーン委員会
中井章仁（ブラッセル駐在）

ブラッセルでは、7月下旬～8月初旬にかけて気温が下がり始め、“夏が終わったね”という恒例の会話がされていました。私は、2010年9月から赴任して早4年が経過しましたが、知らず知らずのうちに恒例の会話を自分もしていることに気付き、やはり現場を知るためには現場に行く（体で覚える）のが一番早いのだなと改めて感じています。

本号では、本年7月～8月で動いた環境規制を中心に報告いたしますが、8月27日に環境グリーン委員会主催で開催したセミナー資料の一部をご紹介します。その後欧州委員会の改選の状況～RoHS指令を中心とした最新情報のアップデートをさせていただきます。

1. 8月27日 環境グリーン委員会セミナーにて

環境グリーン委員会では、定期的に欧州最新動向を定点観測でセミナー報告している。最近では、8月27日に実施し、その中で環境関連規制の概観とそのモニタ項目を次のスライドを用いて説明した。次回は、11月中旬に計測展2014 OSAKAの委員会セミナーにて、11月下旬に東京にて行うことを計画している。

環境関連規制モニタ概観（計測器の視点）



	項目	計測器業界でのアクションポイント	緊急度	影響度
化学物質	RoHS改正指令	追加禁止開始時期、適用除外用途	◎	◎
	REACH規則／CLP規則	SVHC候補物質の影響評価、執行監視	○	◎
	ナノマテリアル	ナノ定義見直し、透明性のパブコン	○	○
	殺生物製品規則	Complex Treated Article の解釈	○	◎
	内分泌かく乱	大きな流れをモニタ	×	△
	食品接触規則	対象拡大、試験方法の標準化	○	○
エコデザイン	エネルギー関連指令（ErP指令）	2015-2017作業計画、執行監視	△	○
	エコラベル、エナジーラベル	大きな流れをモニタ	○	×
	環境フットプリント	大きな流れをモニタ（特にLCA部分）	×	△
製品安全	執行監視規則、eCompliance	通関検査の体制	○	○
資源循環	欧州資源効率プラットフォーム（EREP）	大きな流れをモニタ	×	△
	Raw Materials	大きな流れをモニタ	△	○
	WEEE改正指令 各国運用	各国の運用に従い対応	○	○
横断的	欧州議会選挙(5月)、欧州委員交代(11月)			
	政策文書:循環経済に向かって、自然資本(Natural Capital)の定義			
	地球温暖化(エネルギー効率、クリーン燃料、バイオ燃料、Fガス規則など)、生物多様性			

注：緊急度・影響度は計測機器に対してのものであり、講師の主観に基づいています。

2. 欧州委員会での改選

欧州議員改選後、欧州委員長としてユンケル氏（前ルクセンブルグ首相）が選出され、現在は欧州委員（日本で例えると大臣）の調整段階に入っている。環境規制を追っている立場では、気候変動担当、環境担当、エネルギー担当が注目であるが、9月5日時点の情報では環境担当はデンマーク（言わずも知れた環境推進国）になるという予測が大半であり、産業界にとっては今後の動きを憂慮する雰囲気が漂っていたが、9月17日時点では一転マルタで決まりそうということで、少し安堵感に変わっている。

現欧州委員の任期は10月31日であり、11月1日から新欧州委員の任期（5年）が始まるが、これに合わせて欧州委員会職員の異動も多く行われる。欧州委員会と接触している担当者としては、Policy Officerという役職で、実質個別の法規制を取りまとめている欧州委員会担当者の異動有無が一番の注目である。

3. RoHS改正指令（呼称RoHS II）

3.1 2014年の注目ポイント

①RoHS追加禁止物質の見直し、②適用除外用途（共通、カテゴリ8&9専用）、③対象製品の見直し（2014年7月22日期限）、であることは前号から変わっていない。本号では、①と②に進捗があったので、その内容を報告する。

3.2 追加禁止物質の見直し

追加禁止物質は同時並行で複数の動き（下記参照）があるが、7～8月は追加禁止WG（下記上から3番目）のみが動いた。4番目の法律提案は、HBCDDはRoHSでは規制せず、DiBPが類似物質として同時に規制される方向で進んでおり、間もなく欧州委員会案が公開される予定である。

追加禁止物質（6条1項）



条項	担当	タイムライン
追加禁止物質候補を決定するための方法論	Umweltbundesamt	2014年2月完了
4物質(*1)をRoHSで禁止にするかどうかの詳細アセスメント	Umweltbundesamt	2014年2月完了
評価周期や加盟国提案の取り扱いに関する手順書	欧州委員会	欧州委員会がRoHS追加禁止WG(後述)を設立、4月15日に第1回会議
4物質(*1)追加の法律提案	欧州委員会	2014年9月に欧州委員会案
4物質(*1)の次の優先評価物質の分析	Umweltbundesamt	2014年2月完了
	Oko-Institut e.V. Fraunhofer	2014年6月完了、8月一部修正

(*1) HBCDD(臭素系難燃剤)、DEHP/DBP/BBP(フタル酸エステル類)

RoHS追加禁止WG（下記参照）は、次回9月12日の第2回会議にて、このWGの議論対象とすることが最終決定される予定である。現在は、①代替のアセスメント基準、②類似・グループ物質の定義、③データの品質と不足データの取り扱い、④加盟国提案の扱い、の4つが欧州委員会から提案され、メンバーへの意見募集が実施されている。

RoHS追加禁止WG



● メンバー

- ✓ 欧州委員会（環境総局、企業総局）、欧州議会
- ✓ 加盟国：デンマーク、UK、ドイツ、スウェーデン
- ✓ CEFIC、EUROMETAUX、DE、SEMI、ESIA、ORGALIME、AmCham、JBCE
- ✓ コンサルタント（ERA Technology、Oeko）、NGO（ChemSec）
- ✓ WEEE Forum、EERA（在欧EEEリサイクラー団体）

● タイムライン

- ✓ 第1回会議が4月15日、第2回会議を9月12日に予定
- ✓ 5月5日期限で、参加者から1ページ版の議論したいことを提出済み

● WGの基本方針

- ✓ 原則、非公開会合であり、チャタムハウスルールを適用
- ✓ 最終決定は、加盟国の諮問グループで行う（本WGで決定はしない）
- ✓ ネガティブな意見を排除する前提で、自由な答弁を行う

3.3 適用除外用途

適用除外用途には、新規と延長があるが、延長申請においてのみ進捗があった。下記参照の通り、2016年7月期限（延長申請期限2015年1月）の延長申請作業は、今や28団体での協働となっている。

延長申請（ANNEX III） 申請期限2015年1月



● 欧州28団体(*1,*2,*3)が協働で申請書を準備中

(*1) 初期提案メンバー 4団体

DE（欧州家電ICT業界団体）、TAE（在欧アメリカ系電気電子機器業界）
ESIA（欧州半導体デバイス協会）、JBCE（在欧日系ビジネス協議会）

(*2) 第2期メンバー 5団体

ZVEI（在独電気電子機器業界）、LE（在欧照明工業会）、EPCIA（在欧半導体部品業界）、ACEA（在欧自動車工業会）、
SPECTARIS（在独でハイテクを利用した電機電子・医療機器業界）

(*3) 第3期メンバー 19団体

EUROFER（欧州鉄鋼連盟）、ECI（欧州銅協会）、EGGA（欧州溶融亜鉛めっき協会）、GDA（在独アルミニウム協会）、
EUROMETAUX（欧州非鉄金属協会）、GAE（欧州ガラス業界）、Ceram-unie（欧州セラミック工業会）、
AMCHAM EU（在欧アメリカ商工会議所）、COCIR（欧州放射線・医療電子機器産業連合会）、CECED（欧州家電機器委員会）
WVM（在独金属貿易工業会）、IPC（電気産業を繋ぐ団体）、EGMF（欧州庭園機械連盟）、EPTA（欧州電動工具団体）、
UNESID（在西鉄鋼団体）、ITI（情報技術産業協会）、Radtech（欧州UV/EB技術協会）、EAA（欧州アルミ工業会）

計測器業界の注目は、カテゴリ9がこの延長申請に影響を受けるか（カテゴリ9を含めて延長申請をされた場合のみ影響を受ける）であるが、水銀ランプ（No.2,3,4）、光学フィルタおよびガラス中の鉛・カドミウム（No.13）以外は、延長申請書にカテゴリ9を延長申請の対象としない旨の記載がされる方向で進められている。

4. その他トピックス

紙面の都合上、詳細は割愛するが、計測機業界として関心がありそうな動きを筆者なりに抽出して箇条書きにした。抽出の基準は、近い将来的（10年を目安）に計測器が法規制対象になる可能性があるものであり、遠い将来（10年を超える）の可能性は含んでいない。また、比較的簡単に入手できる情報（SVHC情報など）は割愛している。

4.1 REACH / CLP規則関連

- REACH規則の認可・制限とRoHS指令の関係の整理が、CARACAL（REACH・CLPの加盟国代表者会議）にて、文書ベースで提出され内諾された。REACH認可とRoHS適用除外用途、REACH制限とRoHS追加禁止物質の関係は、継続モニタリング要素である。
- REACH規則の制限について、Restriction Efficiency Task Forceが設立され、制限（禁止）を決めるあらゆる作業の効率化を目指した取り組みが行われている。知見の収集方法、産業界（特に中小企業）に早く状況を認識してもらう方法、社会経済影響を含むデータ品質の精査方法、を重要課題としており、安易な予防原則で進めない意気込みが感じられる。
- デンマークから提出されたフタル酸エステル類制限ドシエが、欧州委員会から正式に却下され、それに伴いデンマーク国内法もペンディングとなった。一方でデンマークは、同物質を内分泌かく乱物質として再度制限提案を提出した。
- 2015年5月期限の混合物に対するCLP表示や届出に対して、ECHAがキャンペーンを積極的に行い始めた。計測器業界においても、標準物質・試薬・消耗品などにおいて、対象有無の精査を行い、必要に応じて対応を始める時期となっている。

4.2 その他

- ナノマテリアル定義の欧州委員会勧告（2011年公示）の見直しにおいて、事前調査レポートがJRC（欧州共同研究センター）から順次公開されている。第1弾レポートは5月、第2弾レポートが8月末に公開済み、11月に第3弾レポート（定義の改正案）が公開される予定である。その後、欧州委員会主導でパブリックコンサルテーションやワークショップが開催される予定であり、官報公布は早くても2014年4月以降である。
- エコデザイン作業計画2015-2017のTask3ドラフトで、27製品群が抽出された。無線のサブシステム等一部計測器が絡むが、過去の積み残しが多いため、作業時間軸は遅い。
- Fガス規則（517/2014/EU）における使用量の報告期限が2015年3月末。新規対象者は注意が必要である。

SICE ANNUAL CONFERENCE 2014 北海道 JEMIMA Forum実施報告

企画運営会議 副議長 笹嶋 久
(SICE2014 JEMIMA Forumタスクフォース 主査)

JEMIMAでは、公益社団法人計測自動制御学会（SICE）と計測・制御分野における産学連携の一環として、相互に協力してきております。SICE ANNUAL CONFERENCEへの協力はSICE2010 in Taiwanから継続しており、本年度は第4回目として北海道大学で開催されたSICE2014においてJEMIMAのスポンサーフォーラム“SICE2014 JEMIMA Forum”を開催しました。

開催日：平成26年9月10日（水）16:30～18:00

場 所：北海道大学 工学部 B3棟1階 B31講義室

テーマ：【基調講演】 計測と制御で創る未来の地球（未来が、動きだす。）

【技術講演-1】 戦略的計測・制御基盤技術動向（“オーダーメイド医療につながる技術革新”）

【技術講演-2】 計測制御分野の“Digitalization”の動向

① 産業オートメーション分野のイノベーション

② Industrie4.0概要とオートメーション産業への影響

講 師：JEMIMA小野木副会長、大阪大学 谷口教授、

IEC/TC65国内委員会：笹嶋氏（アズビル）、林氏（横河電機）

参加者：約140名



【講演される小野木副会長】



【講演される大阪大学 谷口教授】



【多くの参加を頂いた会場風景】



【受 付】



【集合写真（右から3人目：SICE 仲田 会長、中央：SICE 新 前会長）】

SICEからは仲田会長、歴代会長、理事会関係者など多くの幹部の方々に参加頂きました。また、SICE2014 ANNUAL CONFERENCE参加者（海外大学・企業関係者を含む）、北海道地区企業など日頃SICE / JEMIMAとの接点が少ない方々も含め、JEMIMAの活動概要および、最近の計測制御・オートメーション分野の技術動向と将来の展望を紹介する場として、JEMIMA小野木副会長のキーノートを先頭に、戦略的基盤技術検討委員会から推薦頂いた、JEMIMA企業の技術開発に関連した最先端技術分野の紹介として、大阪大学 谷口 正輝教授のご講演、最近の話題としてInternet of Things/Cyber-Physical Systemsに関する技術・標準化動向についてIEC/TC65国内委員会代表より紹介致しました。

会場はSICE会長・副会長・理事会／大会実行委員会関係者を含め多くの方々に参加頂きました。会場は、ほぼ満席となり大盛況のうちに90分のフォーラムを終了することができました。

このフォーラムのスポンサーとして11社より協賛を頂き、協賛金は今後のSICEの活動に役立てて頂く事と致しました。御協力頂きましたスポンサー各社には感謝致します。

協賛スポンサー（英文社名 アルファベット順）

アンリツ(株)、アズビル(株)、(株)チノー、東亜ディーケーケー(株)、エンドレスハウザージャパン(株)、富士電機(株)、(株)日立ハイテクソリューションズ、(株)堀場製作所、(株)ピーアンドエフ、(株)東芝、横河電機(株)

時間	テーマ	講師
① 基調講演		
16:30～17:00	計測と制御で創る未来の地球 “Measurement and Control, lead to the future earth” (未来が、動きだす。) (“Turning the key to the future”)	JEMIMA副会長 小野木 聖二 氏
② 技術講演		
技術講演-1 17:00～17:30	戦略的計測・制御基盤技術動向 (“オーダーメイド医療につながる技術革新”)	大阪大学 産業科学研究所 教授 谷口 正輝 氏
技術講演-2 17:30～18:00	計測制御分野の “Digitalization” の動向 ①産業オートメーション分野のイノベーション ②Industrie4.0概要とオートメーション産業への影響	IEC TC65国内委員会 委員長 笹嶋 久氏 (アズビル株式会社) IEC TC65国内委員会 副幹事 林 尚典氏 (横河電機株式会社)

今回のSICE2015は、2015年7月28日～30日の3日間 中国 杭州で開催される予定です。例年より2ヶ月ほど早い時期に開催されるため、11月末にはSICE2015でのJEMIMAとしての協力形態を確定させる必要があります。JEMIMA国際委員会とも協力しながら協力内容の検討を進めて参ります (CIMA：中国儀器儀表行業協会との協力も含め)。

IEC/TC66 Northbrook会議参加と次回東京会議

製品安全・EMC委員会

1. IEC/TC66の国際会議参加状況と概要

日本およびJEMIMA製品安全・EMC委員会から、2010年のEverett会議以降、IEC/TC66の特にWG1およびWG2に継続して規格開発に参加している。今回、2014年6月に開かれたNorthbrook会議にも参加してきた。

IEC/TC66国際会議では通常複数のWG (Working Group) とMT (Maintenance Team) の会議が開催されるのが通例であり、今回は、WG1, WG2, WG8, WG9, MT13, JWG13の6つの会議が開催された。IEC/TC66国際会議は、現在、半年に1度のペースで開催されている。昨年10月のオーストリア ウィーン近郊の都市Brunn am Gebirgeで行われた会議に続き、今回のNorthbrookで会議が行われた。そして、次回11月はJEMIMAとしても支援を行う東京会議となる。

本稿ではIEC/TC66のNorthbrook会議のWG1とWG2を中心に抜粋して報告する。

2. Northbrook

Northbrookはアメリカ合衆国五大湖のミシガン湖に隣接し、Chicagoのすぐ北に位置する都市である。IEC/TC66の会議場所はIEC/TC66委員が所属する会社/団体で開催されることが多く、今回のNorthbrook会議は試験機関として著名なUnderwriters Laboratories, Inc. (UL) にて開催された。



図1. アメリカ合衆国とNorthbrook

3. Northbrook会議

-1. WG1 (一般)、コンビナ : Mr. Thomas Smith (USA, FLUKE)

(1) 概要

WG1はIEC/TC66での共通規格であるIEC61010-1 (計測, 制御および試験所使用電気機器の安全要求事項—第1部: 一般要求事項) を取り扱い、参加者が最も多い会議となっている。IEC61010-1は2010年に第3版が発行されたが、一方で改訂作業の準備も2010年から既に始まっている。次の版として、第4版を出すか、第3版の修正票1とするかの議論もあったが、現在の会議での内容は、今のところ、修正票で対応する方向となっている。近日中にCD (委員会ドラフト) が発行され、国際規格発行は2016年7月を予定している。

(2) IEC61010-2-120に関連するPart 2文書

IEC61010-2-120 (機械的側面がある機器に対する個別安全要求事項) は機械安全の新しい規格として準備されており、WG8で審議されているが、国際規格として完成するのは少し先になる予定である。一方、IEC61010のPart 2の個別規格では機械的要素を持つ安全規格が多く、この取り扱いで問題になって

いる部分があった。すなわち、以前では、Part 2-120機械安全の議論を待って、その他のPart 2にその安全の要求を入れて新しいPart 2の個別規格を出していく予定であった。しかし、IEC61010-1第3版が2010年にできて既に4年ほど経っており、このままであると、このPart 1第3版と併読できるPart 2の個別規格が当面発行されず、この不整合の問題が解決できない。このため、今回の会議で出した結論は、IEC61010-2-120と併読が必要になるIEC61010-2-051（攪拌機）、-061（電子スペクトロメータ）、-081（自動試験所機器）、-101（体外診断装置）についてIEC61010-2-120の完成を待たずに国際規格として先に出すことで、Part 1第3版への整合を優先し、機械安全は別途Part 2-120として出すことになった。



図2. WG1の会議風景

-2. WG2（計測）、コンビナ：Mr. Didier Piaud（FR, Chauvin Anourx）

(1) IEC61010-2-034（絶縁抵抗計、耐圧試験器などの50V以上の電圧を発生させる機器）

Brunn am Gebirgeでは会議時間が限られており、IEC61010-2-034 NPに付いたコメントに対して、時間内に終わることができなかった。このため、残っていたコメントに対して、コメント解決をした。意図不明の文言削除や現行製品を考慮した意見について日本の意見が通ったところも多い。また、IEC61557-2絶縁抵抗計の性能規格について、一部、安全の要求がある。このため、この要求をIEC61010-2-034に取り込み、IEC61557-2の作成元であるIEC/TC85 WG8にその安全要求の削除を依頼していくことになった。

(2) IEC61010-2-032（電流センサ）日本コメント

通常、WGの会議では規格案に対して各国からコメントが出されて、その審議をする。その一方で、現行規格に対する質問が出て、会議中に解決のための議論が行われることがある。IEC61010-2-032の改訂作業はまだ始まっていないが、製品安全・EMC委員会の委員が中心になってJIS化をしており、その際に、問題点、質問事項などが出てきた。このため、これについて、コメントをコンビナに提出し、この日本コメントの審議を行った。JIS化の性格上、編集上のコメントが多かったが、本質的なコメントも多く出された。この中で、特に話題となったのはMAINS（主電源）とMAINS CIRCUIT（主電源回路）の定義変更に対する疑問である。IEC61010-1で定義されているこの2つの語句は、このIEC61010シリーズの基本語句であり、主電源の場所で過電圧カテゴリや測定カテゴリを定義され、これらのカテゴリで要求が変わるため、最重要語句である。こうした語句の定義変更について、一部定義を付加したような定義変更ではあるが、やはり、変更すべきではないとの結論が出た。このため、他のIEC61010-2-03XやIEC61010-1を含め、見直すことになった。

こうした本質的な内容を含んだ日本コメントに対して評価が高かった。

(3) 次回

次回の東京会議では2日間の日程でPart 031 CDV, Part 2-030CD, Part 2-034 CDのコメント解決をする予定である。

4. 東京会議

以前から開催を求められていたIEC/TC66の日本での初開催の会議は、経済産業省がIEC総会と共にIEC/TC66を招致し、電気学会管轄のTC66国内委員会が中心となって2014年11月に運営および開催することになった。支援するJEMIMAにとっても大きな意義のある会議である。日程は

WG9 : 11/8 (土)、11/9 (日)

WG2 : 11/10 (月)、11/11 (火)

WG1 : 11/12 (水)、11/13 (木)

Plenary : 11/14 (金)

である。

以上、IEC/TC66 Northbrook会議について報告した。次回は東京会議を報告する予定である。

委 員 会 開 催 録

開催場所に指定のない会議は計測会館にて開催しました

機能別委員会

《企画運営会議》

開催日 6月13日

場 所 TEPIA会議室

議 事

1. 第54回定時総会、5月度定例理事会報告
2. 7月度定例理事会の次第（案）について
3. 本日の平成25年度委員会活動成果報告会次第・役割分担確認
4. タスクフォース活動報告
5. 各委員会の活動状況報告

開催日 7月8日

議 事

1. 7月度定例理事会の次第
2. 平成25年度第2回委員長連絡会議の開催案内
3. タスクフォース活動報告
4. 各委員会の活動状況報告

《広報委員会》

開催日 6月26日

議 事

1. 直近の新聞発表案件と各委員会動向の確認
2. 「技術解説」のアクセス状況について
3. 計測展2014 OSAKAでの記者会見の検討
4. 新聞掲載情報の検索方法の検討

開催日 7月24日

議 事

1. プレスリリース発信方法について
2. 計測展2014 OSAKAで記者会見を実施する
3. 新聞掲載情報の検索方法を検討中

《製品安全・EMC委員会》

開催日 7月4日

議 事

1. IEC/TC66国際会議（6/2～5、米国Northbrook）出張報告
2. IEC61010-1勉強会（7/31開催）の概要説明
3. 計測展2014 OSAKAに委員会出展する
4. TC66国内委員会に対して、当委員会から委員登録する
5. 第1回セミナー「アジア各国の電池安全規制」

の開催案内決定

6. 情報交換会

中国の取扱説明書の規格GB5296.1、取扱説明書の規格、マレーシア一次電池安全性規格対応、世界各国の計量法

開催日 8月1日

議 事

1. 第1回セミナー「アジア各国の電池安全規制」のテキスト内容確認
2. IEC61010-1勉強会（7/31開催）開催報告
3. IEC/TC66東京会議の準備状況確認
4. 情報交換会
取扱い説明書のドイツ語翻訳、レーザー規制、マレーシアの一次電池規制の半年延期

《環境グリーン委員会》

開催日 6月5日

議 事

1. Category8&9関連工業会連絡会報告
2. 経済産業省からの情報展開（水銀条約関連）
3. CU-RoHS関連
4. RoHS適用除外用途延長申請の動向など
5. 欧州最新情報

開催日 7月3日

議 事

1. CU-RoHS関連
2. 水銀条約関連
3. 中国環境保護法の改正
4. 欧州最新情報
5. WG活動報告

《校正事業推進委員会》

開催日 6月20日

場 所 キャンパスプラザ京都

議 事

1. 報告事項
(1) NITEからの報告（JCSSの試験機関の活用について）
(2) 分野別WG
①JCSS協力WG
②JCSS対応（流量）WG
(3) 事務局から
①基準認証政策体制の変更について
②委員会活動成果報告会アンケート（コメント）紹介

- (4) 計測機器販売店会アンケート調査結果
2. 計測展2014 OSAKAについて
午前：サントリービール京都工場見学

《エネルギー・低炭素政策委員会》

※エネルギー計測・制御WG (WG1)

開催日 6月20日

議 事

1. 前回議事録の確認
2. TR62837 Ed.2 JEMIMA請負箇所を中心としたドラフト検討
3. 「エネルギー効率化のためのシステムアプローチ入門」の最終確認
4. 転用・引用許諾依頼結果の報告
5. 情報共有

開催日 7月22日

議 事

1. 前回議事録の確認
2. TR62837 Ed.2 JEMIMA請負箇所を中心としたドラフト検討
3. その他情報共有

開催日 8月18日

議 事

1. 前回議事録の確認
2. TR62837 Ed.2 JEMIMA請負箇所を中心としたドラフト検討
3. その他情報共有

※規制・国際標準対応WG (WG2)

開催日 6月19日

議 事

1. WGの進め方、テーマ担当分け
2. Scope3情報交換
3. テーマ発表：京都府・市 環境条例、エネルギー基本計画、IPCC#5
4. その他

開催日 7月17日

議 事

1. 経団連炭素社会実行計画フェーズII
2. 中国のCO2規制（日本企業に影響広がる）
3. Scope3情報交換
4. その他

※スマートグリッドWG (WG3)

開催日 6月9日

議 事

1. 前回議事録の確認
2. ソウル会議の宿題の確認と今後の作業について
3. その他

開催日 7月3日

議 事

1. 前回議事録の確認
2. WEB会議報告
3. バークレー会議に向けて
4. その他

機種別委員会

《指示計器委員会》

開催日 6月13日

議 事

1. 報告事項
 - (1) 経済産業省の組織変更に伴う担当部署変更について
 - (2) JIS C 1102-1改正素案作成WG委員登録について
2. JISマーク認証維持審査の対応について

開催日 7月10日

議 事

1. 報告事項
 - (1) 委員会活動成果報告会アンケート（コメント）紹介
2. JISマーク認証維持審査における対応について

《PA・FA計測制御委員会》

開催日 6月27日

議 事

1. 「平成25年度成果報告」原稿作成状況
2. 7月講演会検討状況（講演会TT）
3. 11月PA・FAクォーターリーテーマ・執筆者検討
4. 6月度見学会出発前確認
5. IEC/TC65諮問委員会6月報告

見学会

㈱ハイパーサイクルシステムズ 本社工場

開催日：7月23日

議 事

1. 計測展委員会セミナー テーマ・演題概要・発表者確認
2. 「平成25年度成果報告」原稿作成状況
3. 11月PA・FAクォーターリーテーマ・執筆者確定
4. 7月講演会紹介

講演会

欧州改正RoHS指令等への対応について

《温度計測委員会》

開催日 6月11日

議 事

1. 報告事項
 - (1) JIS C 1604 改正説明会進捗状況
 2. IEC/SC65B/WG5日本招致について
 3. 500回記念テーマについて
 4. JEMIS 034 (測温抵抗体) 見直しについて

開催日 7月9日

議 事

1. 報告事項
 - (1) IEC/SC65B/WG5京都会議準備状況
 - (2) 委員会活動成果報告会
2. 500回記念テーマについて
3. JEMIS 034 (測温抵抗体) 見直しについて

《防爆計測委員会》

開催日 6月27日

見学会 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 相模原キャンパス

開催日 8月8日

議 事

1. 報告事項
 - (1) IEC/TC31国内委員会
 - (2) 委員会活動成果報告会アンケート (コメント) 紹介
2. 防爆新指針改定に対するアンケートまとめ、審議

《環境計測委員会》

開催日 6月27日

議 事

1. 「環境物品自由化コアリッション (仮称)」の結成について (環境物品の輸入関税)

2. 環境計測ガイドブック第7版について、原稿執筆者の構成と依頼
3. 排ガス中の水銀濃度計測装置JIS原案作成について

開催日 7月18日

議 事

1. 環境計測器ガイドブック作成の進め方について：8月にWGを開催する
2. 排ガス中の水銀濃度計測装置JIS原案作成についてメーカーによる事前打ち合わせを行う

《放射線計測委員会》

開催日 6月20日

議 事

1. 本年度放射線関連施設見学会は、千代田テクノル殿ディエーションモニタリングセンター大貫台事業所にて検討
2. 放射線計測ガイドの見直しについて
3. 受動型積算線量測定システムの動向について報告

開催日 7月25日

議 事

1. 放射線障害防止協議会の「放射線安全管理研修会」の案内について
2. 環境計測ガイドブックの次回の改訂版 (2015年発行予定) に放射線の項目を掲載する
3. 放射線計測ガイドの見直しについて

第135回 関西B・I研修会※（見学会・製品説明会） 開催報告

日時：2014年8月1日（金）

場所：株式会社「日に新た館」（㈱ダイフク 滋賀事業所内）

参加：19名

見学内容

「日に新た館」は、ロジスティクスの問題解決のための「見たい、知りたい、体験したい」が実現できる㈱ダイフクの世界に類を見ないロジスティクス関連有料公開総合展示場として発足し、年間2万人以上の来場者があります。特に、大規模ロジスティクスシステムには「産業のマザーツール」としての電気計測器が実装・活用されていました。会員企業各社の機器が組み込まれた全体システムの実稼働状態を見学できる絶好の機会となり大変有意義な場となりました。複数の若手営業メンバーが参加の会員企業もありました。

その他

恒例の会員企業による製品紹介が実施され、会員相互の認識を深める事ができました。

また、本会の今後の基本運営方針に関して、コンプライアンスの透明性及び会員企業満足を一層高める事としました。具体的には会員満足の一環として、今年秋頃に関西地区開催計画の「JEMIMA人材育成研修プログラム」の実現・推進に関して、JEMIMA本部企画運営会議・関西支部への協力・支援等を進める事としました。

今後、関西地区工業会活動の一層の活性化に関西B・I研修会が重要な役割を担って行く事を確認しました。



※関西B・I研修会

歴史：1980年設立30年以上の歴史を持つ関西支部有志懇談会

目的：営業活動支援の為に講演会・研究会・見学会を開催

構成：関西支部会員並びに本部会員の関西拠点（支社・支店・営業所等）を主体に30社

運営：平成26年度幹事

代表幹事 山口 真矢 氏（㈱堀場製作所）

代表幹事 森本 進 氏（タケモトデンキ㈱）

会計幹事 河村 浩二 氏（島津システムソリューションズ㈱）

刊 行 物 案 内

最新情報と購入申込はホームページの「刊行物」をご覧ください

※表示価格は税込み（消費税率8%）です

工業会規格（JEMIS）

番 号	規 格 名 称	一般価格	会員価格
・JEMIS 001-1982, 006-009-1978	パネル用計器の正面塗装色 など(002-004廃止、005欠番)	1,080円	1,080円
・JEMIS 010-1977	接触燃焼式可燃性ガス漏えい検知警報器	162円	162円
・JEMIS 011-1977	半導体式可燃性ガス漏えい検知警報器	162円	162円
・JEMIS 012-1977	電気化学式毒性ガス漏えい検知警報器	162円	162円
・JEMIS 013-1977	半導体式毒性ガス漏えい検知警報器	162円	162円
・JEMIS 014-1977	電気化学式酸素漏えい検知警報器	162円	162円
・JEMIS 016-1992	可聴周波発振器試験方法	1,296円	1,080円
・JEMIS 017-2007	電気標準室の環境条件	1,080円	864円
・JEMIS 018-1979	メータリレー	1,080円	1,080円
・JEMIS 019-1980	AC-DCトランスデューサ	864円	864円
・JEMIS 020-1981	クランプ電流計	540円	540円
・JEMIS 021-2012	環境計測技術用語	3,240円	2,700円
・JEMIS 022-1983	工業計器性能表示法通則	4,320円	3,240円
・JEMIS 024-1984	工業計器一般仕様書記載項目	3,780円	2,700円
・JEMIS 026-1992	工業計器性能用語	4,860円	3,780円
・JEMIS 027-1985	工業プロセス用圧力・差圧伝送器の試験方法	2,700円	2,160円
・JEMIS 028-1998	渦流量計による流量測定方法	3,240円	2,160円
・JEMIS 030-1986	原子力発電所プロセス計測機器の試験指針	2,700円	2,160円
・JEMIS 032-1987	超音波流量計による流量測定方法	3,780円	3,240円
・JEMIS 033-1997	マイクロコンピュータ応用計測制御機器設置環境ガイドライン	4,320円	3,240円
・JEMIS 034-2001	熱電対及び測温抵抗体による温度測定方法	3,240円	2,160円
・JEMIS 035-1990	プロセス分析計性能表示法通則	3,240円	2,700円
・JEMIS 036-1994	計測制御機器イミュニティ試験法	4,320円	3,240円
・JEMIS 036-1996	サージイミュニティ試験法 (Amendment-1)	1,620円	1,080円
・JEMIS 037-6-1997	工業プロセス計測制御機器伝導性無線周波妨害イミュニティ試験法	3,240円	2,160円
・JEMIS 037-8-1998	工業プロセス計測制御機器商用周波数磁界イミュニティ試験法	3,240円	2,160円
・JEMIS 037-11-1999	工業プロセス計測制御機器電圧ディップ、瞬時停電および電圧変動イミュニティ試験法	2,160円	1,620円
・JEMIS 038-2006	JEMIMAフィールドバス	3,240円	2,160円
・JEMIS 039-2002	工業プロセス計測制御機器の電磁波妨害特性許容値および測定	3,240円	2,160円
・JEMIS 040-3-2002	定格電流16A以下の工業プロセス計測制御機器に使用される低電圧電源システムの電圧変動とフリッカの許容値	2,160円	1,620円
・JEMIS 041-2002	電磁式水道メーターの面間寸法	1,296円	1,080円
・JEMIS 042-2003	電磁流量計の長期安定性	1,296円	1,080円

報告書類

報 告 書 名	一般価格	会員価格
・明快!!安全保障輸出管理教本・入門から実務まで 改訂第2版(平成26年4月)	2,160円	1,080円
・電気計測器の中期見通し 2013～2017年度(平成25年12月)	8,640円	3,240円
・JIS C 1111:2006 交流トランスデューサ運用マニュアル(平成24年3月)	3,240円	2,160円
・スマートグリッドベストプラクティス集 2011春(平成23年4月)	無料	無料
・安全計装の理解のために「JIS C 0511 機能安全—プロセス産業分野の安全計装システム」の解説(平成21年7月)	2,160円	1,080円
・ハンドキャリー手続きマニュアル 第6版(平成21年7月)	1,188円	648円
・安全保障貿易管理 該非判定ガイダンス 2009(平成21年3月)	1,620円	864円
・環境計測器ガイドブック(第6版)(平成18年10月)	4,320円	4,320円
・申請者のための防爆申請ガイド＝本質安全防爆編 FISCO Model＝(平成17年3月発行)	4,320円	2,700円
・申請者のための防爆申請ガイド＝本質安全防爆編＝(平成11年3月)	4,320円	2,700円
・申請者のための防爆申請ガイド＝耐圧防爆構造＝(平成10年3月)	4,320円	2,700円

(金額:百万円, 前年比: 前年同期比増減率%) 下記の数値は修正される場合があります。経済産業省生産動態統計HPの統計発表資料をご確認の上で、ご利用ください

生産	電気計器				電気計器				電力量計				電圧・電流・電力測定器			
	電気計測器 合計				指示計器				電力量計				電圧・電流・電力測定器			
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	前年比
2013(H25)暦年	327,160	-15.4	37,102	-9.2	4,640	-13.0	32,462	-8.6	3,216,583	32,462	-8.6	144,637	521,196	-21.6	12,225	2.0
2013(H25)年度	324,759	-12.1	36,485	-12.0	4,630	-8.6	31,855	-12.5	3,163,389	31,855	-12.5	142,411	526,088	-18.2	12,684	7.9
2013/07～09	79,231	-17.2	8,753	-15.1	1,058	-12.0	7,695	-15.5	756,646	7,695	-15.5	33,181	128,456	-27.6	3,126	-2.0
2013/10～12	71,973	-10.9	8,840	-14.3	1,374	-1.9	7,466	-16.3	742,762	7,466	-16.3	29,195	130,716	-16.7	2,929	6.7
2014/01～03	95,043	-2.5	9,483	-6.1	1,129	-0.9	8,354	-6.8	825,170	8,354	-6.8	39,543	137,860	-5.3	3,537	14.9
2014/04～06	73,680	-6.2	11,189	18.9	1,085	1.5	10,104	21.2	1,130,097	10,104	21.2	32,142	138,489	-20.6	2,992	-3.2
2014/05	23,586	-10.7	3,130	1.8	337	3.1	344,908	2,793	344,908	2,793	1.6	10,329	39,722	-25.3	964	-9.2
2014/06	26,737	-9.2	4,288	42.3	387	1.0	440,904	3,901	440,904	3,901	48.3	10,951	46,058	-31.7	1,060	-3.5
2014/07	28,828	11.6	4,596	46.3	396	0.3	480,151	4,200	480,151	4,200	52.9	13,602	48,985	17.8	1,081	0.9
2014/01～2014/07	197,551	-2.1	25,268	11.6	2,610	0.3	2,435,418	22,658	2,435,418	22,658	13.0	85,287	325,334	-9.1	7,610	5.1
2014/04～2014/07	102,508	-1.8	15,785	25.8	1,481	1.2	1,610,248	14,304	1,610,248	14,304	29.0	45,744	187,474	-12.1	4,073	-2.2

※ 平成26年6月11日付 年報に基づき修正を行いました。

生産	電気測定器				無線通信測定器				半導体・IC測定器				ロジック/ICテスト				IC測定関連機器			
	波形測定器																			
	数量	金額	前年比		数量	金額	前年比		数量	金額	前年比		数量	金額	前年比		数量	金額	前年比	
	15,984	5,126	-0.3		11,452	15,845	-51.8		69,776	-21.0		563	33,113	-32.2		146	3,795	-78.7		
2013(H25)暦年	17,500	5,586	11.2	12,016	10,273	-67.9	73,639	-6.5	487	28,924	-33.8	146	3,549	-73.2		146	3,549	-73.2		
2013(H25)年度	3,797	1,336	1.3	2,369	1,334	-79.7	18,667	-21.7	214.0	100,970	-7.1	28.0	739.0	-87.6		28.0	739.0	-87.6		
2013/07～09	4,853	1,312	15.1	2,412	930	-86.8	14,453	13.4	60	4,263	-45.2	30	805	-35.2		30	805	-35.2		
2013/10～12	5,288	1,827	33.7	4,087	1,663	-77.0	20,973	22.6	89	5,841	-41.8	64	1,238	-16.6		64	1,238	-16.6		
2014/01～03	3,077	1,138	2.4	1,967	1,621	-74.5	16,406	-16.1	74	4,336	-50.3	103	838	9.3		103	838	9.3		
2014/04～06																				
2014/05	1,008	331	-18.5	562	360	-83.9	5,561	-17.5	18	1,393	-31.2	32	279	-35.9		32	279	-35.9		
2014/06	1,280	464	17.2	853	901	-44.3	4,889	-45.0	39	1,626	-63.3	44	293	78.7		44	293	78.7		
2014/07	1,225	497	32.2	1,182	3,189	457.5	5,847	-14.0	36	1,179	-66.8	37	361	30.8		37	361	30.8		
2014/01～2014/07	9,590	3,462	21.3	7,236	6,473	-54.3	43,226	-0.5	199	11,356	-49.1	204	2,437	-3.6		204	2,437	-3.6		
2014/04～2014/07	4,302	1,635	10.0	3,149	4,810	-30.5	22,253	-15.5	110	5,515	-55.1	140	1,199	15.0		140	1,199	15.0		

生産	電気測定器										工業用計測制御機器														
	半導体・IC測定器					伝送特性測定器					測定用記録計・データ処理装置					その他の電気測定器					PA用計測制御機器				
	その他の半導体・IC測定器																								
	数量	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比							
2013(H25)暦年	1,790	32,868	90.4	2,581	-34.3	144,218	6,297	-5.8	32,787	-7.5	121,500	-7.3	121,500	-7.3	121,500	-7.3	121,500	-7.3							
2013(H25)年度	1,968	41,166	115.7	1,880	-58.0	144,834	6,546	3.3	31,803	-11.0	122,644	-3.2	122,644	-3.2	122,644	-3.2	122,644	-3.2							
2013/07～09	403	7,831	27.7	232	-75.8	35,088	1,489	-13.3	6,997	-15.0	31,915	-0.4	31,915	-0.4	31,915	-0.4	31,915	-0.4							
2013/10～12	473	9,385	251.2	317	-75.1	34,546	1,639	17.0	7,615	-12.1	28,906	-4.1	28,906	-4.1	28,906	-4.1	28,906	-4.1							
2014/01～03	652	13,894	148.3	692	-50.3	37,673	1,994	14.3	8,857	-10.0	37,525	3.1	37,525	3.1	37,525	3.1	37,525	3.1							
2014/04～06	444	11,232	11.7	262	-59.0	39,852	1,493	4.8	8,230	-1.2	26,250	8.0	26,250	8.0	26,250	8.0	26,250	8.0							
2014/05	132	3,889	-9.2	78	-67.2	13,282	478	0.2	2,557	-3.9	8,660	6.8	8,660	6.8	8,660	6.8	8,660	6.8							
2014/06	144	2,970	-31.0	94	-44.0	12,801	482	-19.8	3,061	-6.1	10,053	13.5	10,053	13.5	10,053	13.5	10,053	13.5							
2014/07	160	4,307	45.3	130	26.2	13,147	486	0.2	2,372	10.5	8,942	-6.5	8,942	-6.5	8,942	-6.5	8,942	-6.5							
2014/01～2014/07	1,256	29,433	58.1	1,084	-49.2	90,672	3,973	8.7	19,459	-4.2	72,717	3.5	72,717	3.5	72,717	3.5	72,717	3.5							
2014/04～2014/07	604	15,539	19.3	392	-47.2	52,999	1,979	3.7	10,602	1.2	35,192	3.9	35,192	3.9	35,192	3.9	35,192	3.9							

注) 主要製品であっても2以下の事業所数又は企業数に係る製品は記載せず、秘匿の必要がある場合は「×」で示しています。

(金額:百万円, 前年比: 前年同期比増減率%) 下記の数値は修正される場合があります。経済産業省生産動態統計HPの統計発表資料をご確認の上で、ご利用ください

生産	工業用計測制御機器													
	PA用計測制御機器													
	発信器													
	温度計			圧力計			流量計			差圧計				
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比		
2013(4/25)暦年	832,875	12,441	4.7	312,405	9,564	0.7	75,840	9,618	-12.0	144,608	11,928	-9.2	10,821	-0.7
2013(4/25)年度	899,502	12,264	1.7	313,133	9,851	7.6	79,698	9,966	-7.3	142,286	12,279	-0.7	11,454	6.9
2013/07～09	212,140	3,130	4.5	80,940	2,531	5.6	18,175	2,341	-9.6	39,670	3,222	-1.6	2,783	4.4
2013/10～12	226,231	3,158	7.9	72,686	2,297	13.7	20,319	2,334	-15.6	31,968	2,948	6.2	2,788	1.2
2014/01～03	259,803	3,008	-5.6	78,604	2,692	11.9	23,581	3,630	10.6	37,424	3,436	11.4	3,853	19.7
2014/04～06	250,431	2,803	-5.6	80,792	2,396	2.8	20,131	1,738	4.6	34,649	3,210	15.8	2,032	0.1
2014/05	89,346	964	-5.3	26,777	757	2.4	6,545	552	-0.2	11,669	1,038	12.8	754	15.5
2014/06	84,339	885	-14.3	27,285	852	-8.2	6,836	658	4.3	12,613	1,174	10.4	723	-7.3
2014/07	94,808	1,015	-3.4	25,810	780	-4.4	6,057	682	-3.5	10,883	961	0.8	748	-6.1
2014/01～2014/07	605,042	6,826	-5.2	185,206	5,868	5.7	49,769	6,050	7.1	82,956	7,607	11.7	6,633	9.7
2014/04～2014/07	345,239	3,818	-5.0	106,602	3,176	0.9	26,188	2,420	2.2	45,532	4,171	11.9	2,780	-1.7

生産	工業用計測制御機器																	
	PA用計測制御機器																	
	受信計																	
	プロセス用分析計						プロセス監視制御システム						デジタル計装制御システム		その他		その他のPA計測 制御機器	
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比
2013(H25)暦年	687,295	13,112	4.2	27,745	11,313	-10.0	24,491	-16.1	3,217	17,044	-12.8	7,447	-22.7	18,212	-10.6			
2013(H25)年度	708,672	14,300	13.1	23,588	12,010	2.6	22,956	-17.2	2,875	16,248	-11.0	6,708	-29.2	17,564	-10.1			
2013/07～09	180,851	3,201	9.0	6,783	2,871	-6.6	7,322	7.2	902	5,638	22.4	1,684	-24.3	4,514	-14.4			
2013/10～12	168,317	3,526	11.3	7,386	2,942	7.0	4,728	-27.3	591	3,281	-20.2	1,447	-39.4	4,285	-6.1			
2014/01～03	191,958	4,601	34.8	8,992	4,149	20.2	7,554	-16.9	913	5,340	-13.0	2,214	-25.0	4,602	-12.3			
2014/04～06	180,007	3,369	13.4	6,418	2,466	20.4	4,489	33.9	344	3,030	52.3	1,459	7.0	3,747	-10.0			
2014/05	58,485	1,108	7.3	1,751	737	11.7	1,571	33.4	116	1,115	72.3	456	-14.1	1,179	-12.9			
2014/06	62,979	1,167	18.8	2,196	968	36.5	2,317	91.6	163	1,632	100.7	685	73.0	1,309	-13.9			
2014/07	67,483	1,286	17.6	2,042	993	16.5	1,311	-31.9	366	1,022	-31.5	289	-33.6	1,166	-14.5			
2014/01～2014/07	439,448	9,256	23.8	17,452	7,608	19.8	13,354	-7.1	1,623	9,392	-2.3	3,962	-16.6	9,515	-11.7			
2014/04～2014/07	247,490	4,655	14.5	8,460	3,459	19.3	5,800	9.9	710	4,052	16.4	1,748	-2.8	4,913	-11.1			

生産	放射線測定器					環境計測機器				
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量
2013(H25)暦年	29,487	8,263	-48.6	37,656	14,476	1.0				
2013(H25)年度	127,895	7,176	-44.2	37,125	14,861	4.3				
2013/07～09	61,668	2,017	-48.8	8,327	3,365	-4.7				
2013/10～12	54,971	1,205	-32.3	9,533	3,827	7.9				
2014/01～03	112,837	3,954	-21.6	10,038	4,538	9.3				
2014/04～06	3,115	869	-26.5	8,037	3,230	3.2				
2014/05	1,229	391	4.5	2,755	1,076	6.1				
2014/06	847	289	-15.7	2,511	1,156	-4.5				
2014/07	1,281	459	-24.8	3,300	1,229	27.6				
2014/01～2014/07	117,233	5,282	-22.7	21,375	8,987	9.1				
2014/04～2014/07	4,396	1,328	-25.9	11,337	4,459	8.9				

注) 主要製品であっても2以下の事業所数又は企業数に係る製品は記載せず、秘匿の必要がある場合は「×」で示しています。

◆今号の表紙

日本有数の陶器の町、瀬戸市にある「岩谷堂公園」の紅葉です。

近所には東京からも観光客が押し寄せる「香嵐溪」があります。

最初は香嵐溪が目当てでしたが、名古屋、関東から押し寄せる観光客の数はすさまじく、穴場と教えられた岩谷堂へ来てみました。なるほど香嵐溪ほどではありませんが、それでも結構な人出です。やはり中部地域で有数の観光スポットだけあります。

園内は自然の残るところも多く、撮影には好適です。そのようなところには人も少ないのでゆっくり撮ることが出来ました。

園内にはバンガロー村や、滝などもあり、家族で楽しめそうです。

撮影に専念したので瀬戸の町は見る事が出来ませんでした。食事をした店にはたくさんの食器類が置いてあり、ユニークな陶器ビールマグとマグカップを購入することが出来ました。

使用機材：カメラ：Canon EOS5D MarkⅢ

レンズ：Canon EF16-35mm F2.8L II USM

絞り：F11

シャッター速度：1/8秒

フィルタ：なし

ISO100

写真：佐藤 健治

●JEMIMA会報

2014/Vol.51No.4 2014年10月20日発行

発 行 一般社団法人日本電気計測器工業会 (JEMIMA)

本 部 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-15-12 (計測会館)

電話03-3662-8184 (広報・展示部) FAX03-3662-8180

関西支部 〒530-0047 大阪市北区西天満6-8-7 (電子会館6階)

電話06-6316-1741 FAX06-6316-1751

編集事務局 広報・展示部

印 刷 日本印刷株式会社

●JEMIMA会報への広告掲載申込およびJEMIMA会報送付先の変更・停止は、
info@jemima.or.jpまでご連絡をお願いします。

●次回発行予定 2015年1月30日

●禁無断転載

オートメーションと計測の先端技術が集う



2015.12.2[水]-4[金]

東京ビッグサイト 西1・2・3・4ホール
(全館)・アトリウム

<http://jemima.or.jp/tokyo/>

入場料 1,000円(税込) ※事前登録者またはご招待券持参者は入場無料

主催 JEMIMA 一般社団法人 日本電気計測器工業会

出展をお考えの方

2014年12月より出展申込みを受け付けます。

出展料 1小間(間口3m×奥行3m)

JEMIMA 会員: 320,000円(税抜価格) | 一般: 350,000円(税抜価格)

問い合わせ先

計測展 2015 TOKYO 運営事務局 (日経 BP 社)

〒108-8646 東京都港区白金 1-17-3 NBF プラチナタワー

TEL: 03-6811-8084 | FAX: 03-5421-9170 | E-mail: itevents@nikkeibp.co.jp

同時開催

SCF 2015

システムコントロールフェア

技術がつながる、未来が拓ける、ものづくりイノベーション

SCF

<http://scf.jp/>

主催



一般社団法人 日本電機工業会



一般社団法人 日本電気制御機器工業会

- ◎電圧標準器
- ◎標準電圧電流発生器
(キャリブレーション)
- ◎デジタルマルチメータ
- ◎指示電気計器
(電圧、電流、電力、
位相、力率、周波数他)
- ◎標準分流器
- ◎標準抵抗器
- ◎ブリッジ類
- ◎デジタル高電圧計
- ◎耐電圧試験器

- ◎絶縁抵抗計
- ◎接地抵抗計
- ◎クランプメータ
- ◎オシロスコープ
- ◎デジタルパワーメータ
- ◎標準電力量計
- ◎標準コンデンサ
- ◎標準インダクタ
- ◎LCRメータ
- ◎周波数カウンタ
- ◎位相計
- ◎力率計

電気

- ◎計器用変圧器
- ◎変流器

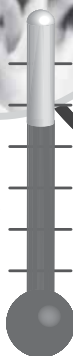


JEMIC
イメージキャラクター
「ミクちゃん」

安心の品質保証
校正試験は信頼と技術の
JEMICへ

温度

- ◎抵抗温度計
- ◎放射温度計
- ◎サーモグラフィ
- ◎熱電対
- ◎光高温計
- ◎温度校正装置
- ◎その他温度計

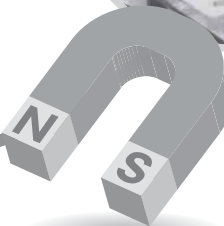


光

- ◎標準電球
- ◎照度計
- ◎標準蛍光灯ランプ
- ◎フィルタ

磁気

- ◎標準磁石
- ◎磁束計
- ◎磁界発生器
- ◎ガウスメータ



企業ニーズに応えるネットワークと、
永年にわたる研究を基盤とする実績。
校正試験のことなら、
JEMICにご相談ください。

JEMICは、電気・温度・光・時間(周波数)のJCSS校正を行っています。

「JCSS」ロゴマーク付きの校正証明書は
ISO/TS 16949等の規格の要求に対応できます。

JCSS校正範囲拡張!

熱電対

0℃～1554℃

デジタル温度計

-40℃～1554℃

詳しくはHPをご覧ください。

- ▶ JEMICでは、電気や温度などの測定技術からISO/IEC 17025、ISO 10012や不確かさまで、多岐にわたるセミナーを開催しています。是非、初任者研修など、社員教育にご利用ください。
- ▶ お客様のご希望の場所に向向いて行う出張セミナーも承っております。

詳細は JEMIC

検索

標準器・計測器の校正試験については下記へお問い合わせください

日本電気計器検定所

http://www.jemic.go.jp/

■校正試験実施・窓口

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7
中部支社 〒487-0014 春日井市気嚙町3-5-7
関西支社 尼崎事業所 〒661-0974 尼崎市若王寺3-12-20
九州支社 〒815-0032 福岡市南区塩原2-1-40

Tel.(03)3451-6760 Fax.(03)3451-6910
Tel.(0568)53-6336 Fax.(0568)53-6337
Tel.(06)6491-5052 Fax.(06)6491-4348
Tel.(092)541-3033 Fax.(092)541-3036

■JEMICのネットワーク・代表電話

本社 (03)3451-1181 東北支社 新潟事業所 (025)246-3371 関西支社 (06)6451-2355 中国支社 (082)503-1251 九州支社 熊本事業所 (096)325-2131
北海道支社 (011)668-2437 中部支社 (0568)53-6331 関西支社 京都事業所 (075)681-1701 四国支社 (0877)33-4040 沖縄支社 (098)934-1491
東北支社 (022)786-5031 北陸支社 (076)248-1257 関西支社 尼崎事業所 (06)6491-5031 九州支社 (092)541-3031